

要望書

大山駅周辺地区は、東武東上線大山駅を中心に、活気とにぎわいのある商店街が広がり、病院・文化会館などの公共公益施設が多数立地するなど、利便性が高く非常に魅力のある地区である。

その一方で、地区内のすべての踏切は、ピーク時一時間あたりの遮断時間が四十分以上のいわゆる「開かずの踏切」であり、これらの踏切は、交通渋滞の発生や踏切事故の危険性、市街地の分断など、まちの魅力低下の一因となっている。

連続立体交差事業は、多数の踏切を同時に除却することによって、これらの課題を一举に解消するとともに、道路ネットワークが形成されることによる交通便利性や防災性の向上など、地域の活性化に資する非常に効果の高い事業である。また、事業の実施にあたっては、駅前広場など周辺のまちづくりと一体的・総合的に進めることが重要である。

東京都が進める大山駅付近の連続立体交差事業については、平成二十九年四月に国土交通省から着工準備採択を受け、平成三十年二月には、都市計画案の作成に先立ち都市計画素案説明会が開催された。本説明会には二日間で延べ約九百人の参加者があり、パンフレットやスライドを用いて、構造形式など計画内容を丁寧に説明するとともに、意見を伺うなど、着実にその実現に向けて進めていただいております。地域の期待も大いに高まっています。

また、板橋区においても、連続立体交差事業にあわせて大山駅の駅前広場計画の都市計画素案説明会を開催するなど、今後も区民と一丸となり、大山駅周辺地区の総合的なまちづくりの推進に向けて取り組んでいく。

安心・安全で快適なまちの実現には、鉄道の立体化が不可欠であり、東武東上線大山駅付近の立体化の早期実現にあたり、次の事項について特段の配慮を要望する。

- 一 東武東上線大山駅付近の連続立体交差事業については、今後とも地元住民に対して丁寧な対応に努めるとともに、都市計画素案をもとに早期事業化を図ること。
- 一 連続立体交差事業の推進に必要な財源を確保すること。
- 一 連続立体交差事業にあわせて区が進める大山駅周辺の整備事業に対し、必要な支援を講じること。

平成三十年八月二十九日

東武東上線大山駅付近立体化促進協議会

会長

坂本



東京都知事 小池 百合子 様